

データマネジメントセミナー(3)

『痴呆はイチョウ葉エキ스로予防できるか』

ーイチョウ葉エキス EGb761 の最近の動向ー

世界で唯一医薬品として承認されている、ドイツ・Dr. W.シュワベ製薬の“イチョウ葉エキス EGb761”。

既に 40 年近い実績のあるこの天然素材薬品は特に痴呆症に効果があるとされています。社会の高齢化にともない痴呆症は大きな社会問題になっており、今後もこの傾向は強まることが予想されています。

痴呆症の薬品としてはこれまでいくつかの化学・合成薬品が紹介されてきましたがいずれも副作用などの問題があり、また長期的に有効であるとの結論も出されていません。そこであらためてドイツ・Dr. W.シュワベ社のイチョウ葉エキス薬品・EGb761 に関心が集まっています。既に 400 以上もある有効性や安全性に関する論文やレポートに加え、今なお世界中でイチョウ葉エキスの新しい発見の報告が絶えません。日本でも最近、独立行政法人 国立健康・栄養研究所からイチョウ葉エキスの有効性と安全性に関する包括的な報告がホームページで発表されました。今回ドイツ・Dr. W.シュワベ製薬では、イチョウ葉エキスの痴呆症に対する有効性と安全性をあらためて日本の専門家の方々にご理解いただこうと、『シュワベデータマネジメントセミナーー痴呆はイチョウ葉エキス EGb761 で予防できるか』を開催することといたしました。

Dr. W.シュワベ製薬（ドイツ）薬理研究部長 医学博士 エゴン・コッホが皆様にイチョウ葉エキスの最近の研究レポートも含めた、世界におけるイチョウ葉エキスの現状をご報告します。ぜひご来駕の上、世界の最新情報をお聞きいただきたくご案内いたします。



Egon Koch

Professional Experience:

1981	Veterinary Surgeon in practices in Germany and the USA
1981 - 1984	Research Assistant, Dept. of Endocrinology and Neuroendocrinology, Institute of Animal Science and Animal Behaviour, FAL, Mariensee, F.R. Germany
1984 - 1986	Postdoctoral Fellow, AFRC Institute of Animal Physiology, Babraham, Cambridge, UK
1986 - 1987	Research Scientist, Institute of Animal Science and Animal Behaviour, FAL, Mariensee, F.R. Germany
1988 - 2002	Group Leader, Laboratory of Inflammation and Immunopharmacology, Dept. of Pharmacology, Dr. Willmar Schwabe GmbH, Karlsruhe, Germany
2003 -	Head, Dept. of Pharmacology, Dr. Willmar Schwabe GmbH, Karlsruhe, Germany